

肝臓は周囲を Glisson 鞘と呼ばれる疎な結合組織で囲まれた小葉と呼ばれる単位が集まってできている。

Glisson 鞘には、門脈・肝動脈・肝内胆管の3つの脈管が並行しており、「三つ組」と呼ばれる。腹部臓器からの静脈血を受けた門脈からは、肝細胞が索状に一直列で並ぶ類洞を血液が流れ、肝細胞はこの門脈血に含まれる成分を合成したり、分解したりして、合成・解毒という作用を果たす。こうした肝細胞の作用を受けた血液は、中心静脈に入って、肝静脈へと流れていく。

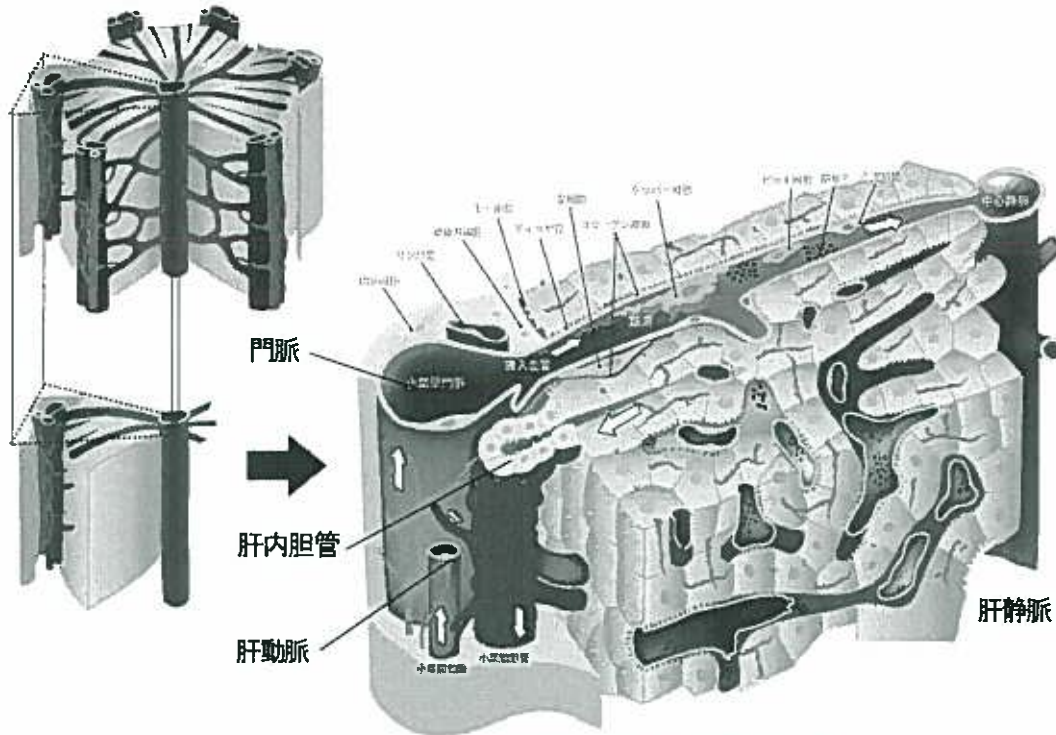


図3 肝臓の組織(小葉)と細胞

門脈の分岐を図4に示す。

1次分枝である門脈右枝は、2次分枝である前区域枝と後区域枝に分岐する。

前区域枝は前上区域枝(P8)と前下区域枝(P5)と呼ばれる亜区域枝(3次分枝)に分かれ、

後区域枝はp pointと呼ばれる分岐点で後上区域枝(P7)と後下区域枝(P6)と呼ばれる亜区域枝(3次分枝)に分かれる。

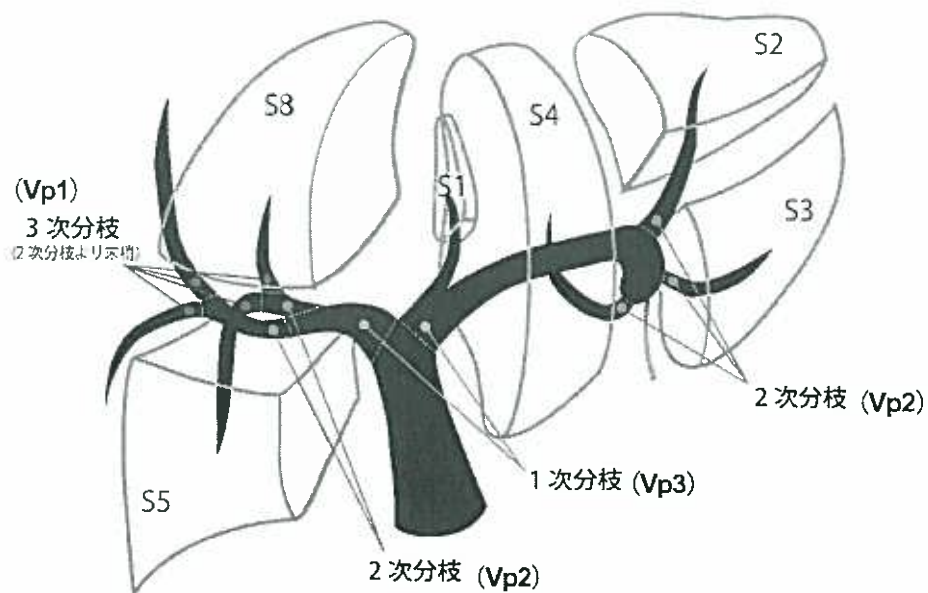


図4 門脈の分岐

図3 肝臓の組織(小葉)と細胞

門脈の分岐を図4に示す。

1次分枝である門脈右枝は、2次分枝である前区域枝と後区域枝に分岐する。

前区域枝は前上区域枝(P8)と前下区域枝(P5)と呼ばれる亜区域枝(3次分枝)に分かれ、

後区域枝は p point と呼ばれる分岐点で後上区域枝(P7)と後下区域枝(P6)と呼ばれる亜区域枝(3次分枝)に分かれる。

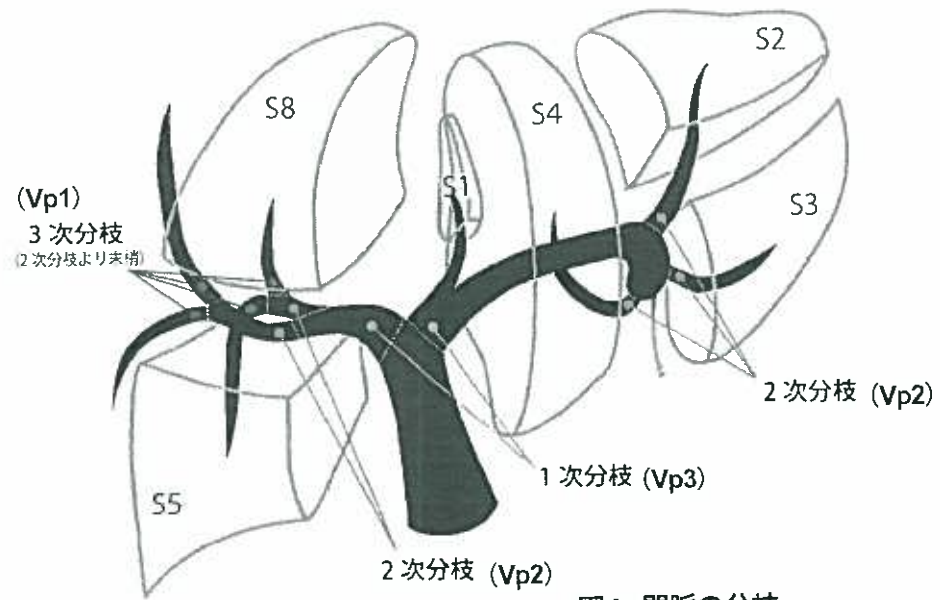


図4 門脈の分岐

